

野球の歴史と普及

社会科B班 乾 光佑

1. はじめに

2012年開催されたロンドンオリンピック。その大会で野球とソフトボールは正式種目から除外された。このことから分かるように、野球は世界ではマイナースポーツである。また、野球人気根強かった日本の野球離れも深刻である。この野球が直面している二つの問題を解決する方法を調べて、自分なりに考察した。

2. 野球の起源

まず、野球というスポーツをしっかりと理解するために野球が始まった起源と日本における野球の起源について調べた。野球の起源はアメリカにあると思っている人が多いだろう。しかしそれは間違いであり、野球発祥の地がアメリカなわけではない。野球の元となるスポーツはイギリスで生まれた。それは『ラウンダーズ』というスポーツで、元々男女兼用のスポーツだった。それがイギリスでの人口爆発で自国を追われた移民たちによってアメリカに伝えられた。そのスポーツはアメリカでは『タウンボール』と呼ばれ、消防団を中心とした青少年に楽しまれた。その消防団の一人であったカートライトによって『ベースボール』と名前を変え、ルールも固定された。そして、アメリカの男女差別の背景から男性だけがするスポーツに変わり、女性は観る側に回り、老若男女から『観て』楽しめるスポーツへと変わっていった。この結果、アメリカでは早くからプロ野球リーグ(大リーグ)が生まれ、賭けやギャンブルの対象になることも多々あった。それに対して日本では、政府の西欧化政策の一環のお雇い外国人として来日したレス・ウィルソンが第一高等中学校の生徒に教えたことから、日本での野球は学生スポーツとして定着した。そのため賭博の対象になることが少なく、純粋にプレーされていた。

3. 世界における野球普及の比較

次に現在の野球の世界での状況を把握するために、野球先進国の日本と不毛の地アフリカのガーナという両極端な国を比較し、右図のようにまとめた。

この図からも分かる通り、野球の普及には経済格差が大きく関わっている。

この観点から野球について調べても面白いと思った。この観点も含め、世界中での野球の普及方法と日本での野球人気復活への糸口を自分なりに考察し、まとめた。

4. 考察① ～世界への野球普及に向けて～

まず、全世界への野球の普及については、第一に野球の楽しさを知ってもらうことが一番の条件である。

野球先進国	日本
経済	豊か
一人当たりのGNI	45,180ドル
道具	豊富にある 自国での生産も活発
選手の状況	プロ野球リーグが存在。 働きながらもプレーできる。

そのために、国際大会の予選を各地で実施することや、野球を知らない国の子供たちをプロ野球の試合観戦に招待することなどで、野球をたくさんの人に見てもらうことが普及のカギではないかと考えた。

また第二の条件として、環境を整えなければならぬということがあげられる。それについては、日本企業の物資の提供や青年海外協力隊などによる経験者の派遣など、野球先進国の地道な活動がもとめられる。

そして最も重要なことは、現地の人の熱意である。いくらこちらから野球ができる環境を提供したとしても、その国の人たちが野球に興味を抱いてくれなければ、まったく意味がないことになってしまう。だから、人々が野球に熱心に取り組んでくれるように、普及する側も熱意をもって普及活動を行わなければならない。

野球不毛の地 アフリカ ガーナ	
経 済	貧しい
一人当たりの GNI	1,410 ドル
道 具	足りていない。古くなっている。自国での生産はほぼない。
選手の状況	プロ野球リーグなし。 生活が困難なため仕事に追われプレーすることが難しい。

5. 考察② ～日本の野球人気回復に向けて～

次に日本の野球人気低迷の解決策を考えた。まずそれには、プロ野球とアマチュア野球との連携が必要不可欠である。プロ野球だけが盛り上がり、学生野球が低迷しては、次の世代の野球を担う人材が減り、野球人気は復活しない。また逆にアマチュア野球にいくら注目が集まっても、プロ野球観戦数が減ってしまうと、さらなる野球離れを生むことになる。つまり、プロとアマ、双方の人气が高まることで、真の野球人気復活があるといえる。

では、具体的にはどうするべきか。プロ野球リーグでは、積極的なファンサービスや各地への遠征などが、野球ファンの野球熱を取り戻すだけでなく、新たな野球ファンを開拓するきっかけにもなるだろう。一方、アマチュア野球では、マスメディアを使った大々的な宣伝や高校野球の予選大会からのテレビ中継など、露出度上げていくことが必要である。また、日本の野球普及の歴史から、野球人気復活のカギは学生野球、特に少年野球にあると考えた。野球生涯続ける人の多くは、小さい頃から野球に触れているからである。それゆえ、野球人口増加のためには少年野球に対する補助が、今まで以上に必要であると思う。

最後に、自分が小さかったころのことを思い出してみると、野球がしたくても、思い切りバットを振ったり、ボールを投げたりすることのできる環境が少なかったように思う。これは、子供たちの野球離れにとっても大きな影響を与えている。野球が思い切りプレーできる場所、つまり広い公園や誰でも使える野球場の減少などが、日本で一番の問題点であり、これから変えていかなければならない最重要課題である。

6. 参考文献

「野球とニューヨーク」 佐山和夫 (中央公論新社)

「アフリカと野球」 友成晋也 (文芸社)

野球部に所属しているという自分の立場から
野球の歴史と普及について興味を持ち、調べはじめた。

2. 研究方法

知りたい内容に関する文献を読み
統計なども調べていった。

3. 結果・考察

野球の歴史を調べていくにつれて
野球発祥の地がアメリカではないことや
もともと野球の元となったスポーツが今ある野球とは
大きく異なるスポーツであることなど意外な事実が分かった。
また、アメリカと日本での野球の普及の違いや
両国での根本的な野球というスポーツの捉え方の違いも調べた。
野球の世界的な広まりについて調べてみると、
オリンピックの正式種目除外などから
世界的にみると野球がまだまだマイナースポーツであり、
さらに日本では野球人口が減少傾向にあることが分かった。

4. 課題

これから野球を世界に広めていくためには
世界各地で野球の普及活動として
道具の援助や経験者の派遣などをどこまでしていけるかが
今後の課題である。
また、日本の野球人気復活については
プロとアマチュアが手を取り合って活動していくことが重要で
これからの積極的活動が期待される。

5. 主な参考文献

野球とニューヨーク 佐山和夫 (中央公論新社)
アフリカと白球 友成晋也 (文芸社)